ち上がったが、都会育ちの3

の農家まで届けるのだ。

私の履歴書

2

疎

開

お尻が15%も上がらなかっ 人はスッとは立てない。私は

れがしゃくに障るのか、地元 3人の都会っ子がいた。 3人 の同級生によくからかわれた とも成績が良かったので、そ には私を含めてクラスに女性 疎開した厚木の荻野小学校

みを感じて悲鳴を上げた。 れた。よろよろと歩く私は背 どけながら手を引っ張ってく 中にチリリと焼けるような痛 先生が「よっこらしょ」とお た。ヤンヤとはやし立てられ、 先生、背中に何かいる」

リをつまみだした。 込むと、一匹の大きなクロア 先生は私の背中に手を突っ

意気地なし」とはやし立てる 悲鳴を上げた。 きなミミズ2匹を両手でつか 男子生徒の顔の前で、私は大 「都会もんの

私は餌のミミズを釣り針に刺 良い子供たちだった。ミミズ して褒められていたのだ。 いたずらはしても皆、 父が釣り好きだったので、 んでブラブラさせた。

皆がポカッと口を開けた。 「ミミズくらい平気よ」

こと。テーマは『大東亜戦争 決め手は時間内に論文を書く ですんなりと合格できた。 について』。作文は得意なの 高倍率だったが、合格した

なく日本軍の。戦果。を高らか きても、大本営はひるむこと 敗戦の気配が色濃くなって

ウンカのように押し寄せるB 五月晴れだった。けたたまし と長崎に原子爆弾が落とさ い警報とともに真っ青な空は れ、日本は戦争に負けた。 横浜空襲の朝は素晴らしい

29という銀色の怪鳥で覆いつ くされた。 朝日を浴びてキラ キラと光る飛

た。 び魚のような くさえあっ 爆撃機は美し

それはほんの 覚えている。 ぶやいたのを い……」とつ 「あ、きれ

疎開前の小学生時代 つかの間のこ

٢

(後列中央)

リンコを入れたのは ミミズ事件」で仲良しに 誰だ。この子の背中にア 地元の子のいたずらに負けず 事件以来、少しばかり尊敬さ れたのか、私たち都会っ子と

り、いたずらされたりした。 りと入れてゆく。それを近く 生がサツマイモをどさりどさ 座らされた。背負った籠に先 たちは畑のあぜ道にズラリと 号令とともに皆が一斉に立 勤労奉仕の時間があり、私 即答したのがおかしくて、先 と地面から出てくる。私以外 時々、ミミズがにょろにょろ 生は「コラッ」とその子の額 んだ田んぽで麦踏みをした。 を小突いただけで終わった。 また別の日には雨でぬかる ガキ大将が悪びれもせずに おいらだ」

の2人の都会っ子がキャーと 平沼高校)を受験した。 どとんでもない」と県立横浜 国のミッション・スクールな という名門校があったが「敵 試のために疎開先から横浜へ みんなは仲良しになった。 第一高等女学校(現在の横浜 戻った。自宅近くにフェリス (戦時中は横浜山手女学院) 小6になり、私は女学校ス

に放送し続けていた。

は身の毛もよ

B29の大群

は敗戦を刻印するような大空 た。そして8月6日がやって 襲で焼け野原となった。 5月 来る。6日の次は9日、 的な無差別爆撃で廃虚と化 29日には私の街、横浜も集中 1945年3月10日、東京 地獄にした。その頃、 していたのだ。 す恐ろしい「焼夷弾」を発明 命中すると広範囲を焼き尽く あたり一面を阿鼻叫喚の生き みじんに破壊する殺人兵器は にした。家々や人間を木っ端 だつ恐ろしい本領をむき出し

掲載日 2020年5月2日 日本経済新聞 朝刊 32ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。